

第40回
シリーズ探訪・探求

訪れたいまち

茨城県石岡市



写真提供：石岡市

獅子ししが微笑ほほえむまち 石岡いしおか

東京・上野からJR特急で1時間余り。茨城県のほぼ中央部に位置する石岡市は、古くは常陸國ひたちのかくにの国府が置かれた歴史ある町で、人口約7万6千人、工業、商業、農林業が主産業の地方都市である。この町も全国各地の都市と同様に、人口減少・高齢化が顕著で、特に、大学進学時と就職時を契機とした若者の減少傾向が最大の課題となっている。

石岡っ子の誇り 「石岡のおまつり」

石岡市では、毎年9月に市民最大の行事が催される。関東三大祭りの一つ「常陸國總社宮例大祭」、通称「石岡のおまつり」である。9月15日の「例祭」に始まり、第3土曜日から3日間、石岡市中心街全域を舞台に、36ある町々の伝統の山車だし（12台）、幌獅子まろしし（32台）、神輿みこし（2台）が、軽快なお囃子はやしや踊りとともに街中を練り歩く。毎年全国から40万人もの見物客が訪れる盛大な祭りである。

石岡のおまつり振興協議会 会長 櫻井さんが教えてくれた。「總社宮には常陸國の神々が合祀ごうしされています。この御分靈ごぶんれいが庶民の生活の安寧あんねい、五穀豊穡ごこくほうしよく、無病息災むびょうそくさいを願い、大神輿に乗って市街地に設け

られた仮殿かりでんにお出ましになられるのです。私たちはお囃子や踊り、獅子舞などで神様に楽しんでいただくのです」

また、各町内の山車にもそれぞれ趣向が凝らされており、3匹の獅子舞が移動式の屋台上で舞う「やしろ」、最上部に神武天皇や八幡太郎などの大きな人形を飾り、前面の舞台でお囃子や踊りが演じられる山車、おかめ・ひよっこ・きつねの滑稽な踊りが見物客に大人気のこと。大きな獅子頭ししがしらに囃子衆はやししゅうが乗り込む移動式の小屋が付随した獅子は「石岡だけのもの」「幌獅子」と呼ばれている。

この祭りで、山車や幌獅子の周りで「おっしやい」の囃子ことばで盛り上げる通称「おっしやい隊」の國分町隊長とし



右：石岡のおまつり振興協議会 会長 櫻井さん
左：國分町青年会女子部 幕内さん



幌獅子。獅子頭の後ろに囃子衆が乗り込む小屋が隠されている。



幌獅子と大群衆



外国人にも
大人気!

國分町青年会女子部では、耳の不自由な方にも祭りを楽しんでいただきたと、掛け声に手話を用いるなど、また来たいと思っていただけるような祭りを目指し、積極的に取り組んでいる。



手話で
掛け声

大きな獅子頭に外国人も興味津々。「石岡のおまつり」には、祭りの趣旨を十分に理解の上、市(町)外の方も参加できる。海外からの参加者もいるという。

石岡のおまつり

関東三大祭り

(写真提供: 石岡市)



大神輿。御分霊を仮殿へ渡御する(運ぶ)。十六弁菊花紋が施されている。



笑いの踊り



絢爛豪華な山車が街中を練り歩く。昨年は試験的に総ての山車と数台の獅子にGPSを搭載し、街中のどこにしているのかが分かるよう工夫し、見物客の便宜に供した。

て毎年参加する國分町青年会女子部の幕内さんは「この町に生まれ育ち、石岡のおまつりは私の体の一部、生きがいです。普段はもの静かな性格だと思っているのですが、友達から『1年で祭りのときだけは、人が変わったみたいに、声を張るね!』って笑われます」と、はにかみながらも祭りへの熱い思いを語ってくれた。

櫻井さんは言う。「石岡のおまつりを次

世代へ継承していくためにも、若い世代の減少は大きな課題です。しかし、祭りとは人の心に根ざしているもの。たとえ、石

岡から離れて暮らしていても、祭りにはみんな石岡に帰ってきてくれる。子どもたちも学校で、踊りもお囃子も稽古してくれている。幕内さんのような若い方たちもいる。石岡の子のDNAはなくなりませんよ。石岡のおまつりは大丈夫です」

自らの手で暮らしをつくりたい

石岡市西部の八郷地区は筑波山、足尾山などの筑波山地の山々が連なる盆地で田園風景が広がる。ここに、有機農業を営む「暮らしの実験室 やさと農場」がある。5名の方が従事しているが、いずれも県外からの移住者である。その一人、関西出身であるという次木さんにお話を伺った。

「私は大学で環境経済学を専攻していたので、経済発展と環境問題の関係、特に有機農業には大変興味がありました。学生ときに、実際に有機農業の生活を体験してみたいと思い立ち、本で調べたり、紹介されたりして、この地に出会いまして。卒業後、同じ志を持つ仲間5人と共に、農作物の生産だけでなく、有機農業を通じた循環型の暮らしをここで実践しています。家畜を飼い、肥料を作り、土を作り、有機農業による生産、生産後は、例えばわらを使った鍋敷きなどの生活雑貨を作るなど、おじいちゃん、おばあちゃん



んの知恵から学ぶ暮らしです。また、昔は当たり前だったであろう「共助のしくみ」も実践しています。余った野菜を融通し合ったり、パソコンを教える代わりに犬の散歩をしても

らったり、お金にはならないけれど『自分ができること』を融通しあう生活態様に

す。少し変わった考え方もありませんが、自分たちの手でつくる暮らしをしたいのです」

県外からの移住者の目から見た石岡の魅力について尋ねてみた。「この土地の最大の魅力は、その地質だと思います。ここではなんでも栽培できます。米はもちろん、根野菜、葉野菜、果樹……、みかんもリンゴも栽培できます。実は、こんな土地は珍しい。台風などの自然災害が少なく、雪も少ない。年間の気候も農業に適しています。農業をする私たちにとって

小さなコミュニティから 石岡家へ

石岡市には、市民参加型まちづくりの



NPO 法人 まちづくり市民会議
理事長 白井さん

推進を図る「NPO法人 まちづくり市民会議」がある。市民の声がまちに反映されるために、市民が集い、まちの課題について話し合う場が必要との問題意識から、平成11年6月に発会。平成12年6月には、中心市街地活性化の提言書「きらめく石岡・銀河計画」を提出し、平成13年6月に現在のNPOになった。以来「まちかど情報センター」の運営など、さまざまな形の市民参加型まちづくり推進事業を展開している。理事長の白井さんに石岡市のまちづくりについてお話を伺った。

「私は千葉県で生まれ、東京で暮らしていました。縁あって今は石岡市民です。『風土』という言葉があります。『風』は他の地域からの移住者、『土』はその地域で生まれ育った方に例えられるのではないのでしょうか。そして『風』と『土』が合わさって、新しい『風土』が生まれる。新しい石岡のまちづくりには、多くの風と土が合わさることが、まず必要だと思います。次に、核家族化の進展からか、石岡でも地域社会における人と人とのつながり、支え



(写真提供：石岡市)

まちかど情報センター。「こんにちは!」「これ何?」元気な子どもたちの声が部屋中に響く。写真は、子どもたち手作りのお化け屋敷。まちづくり市民会議のモットーはSNS。「S(その件)、N(なんとか)、S(しよう)」と気軽に手助けできる社会になりますように……。

ニティをつくる。そんな仕組みをつくりたい。石岡の中に今一度、人と人が関わり動く、小さな「コミュニティ」をたくさんつくりたい。そして、その小さな「コミュニティ」がつながれば、気付けば、住みやすい、住みたいと思える『石岡家』ができている。そんなふうになれば、うれしいです」

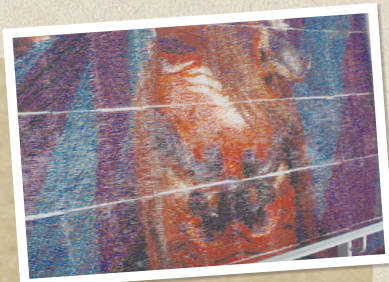
一見どこにもあるように見えるまち「石岡」。しかしここには、人口減少という現実に対峙しながらも、このまちを愛し、懸命に考え行動する人たちがいる。「子どもたちが誇りに思い、石岡大好きと言えるまち」

石岡の「獅子」も優しく微笑み見守っていてくれるに違いない。



(写真提供：石岡市)

合いの機能が弱くなってきたと感じています。あらゆる世代で孤立する人たちが増えていると感じます。私が今最も力を入れているのが『困窮世帯の教育支援』です。放課後に孤立する子どもがいないように、居場所をつくりたい。さまざまな方からの寄付や助けを得て、支え合って実現できました。そこでは、先生役などさまざまな形で大人も参画しています。小さな小さなコミュニティが形成されています。これを、今度はお年寄りの中でもつくりたい。病気などで出歩けない方に対しては、こちらから出向いて行っても「ミニ



JR 石岡駅にある地元中学生作の獅子頭。無数の爪楊枝（つまようじ）でできている。

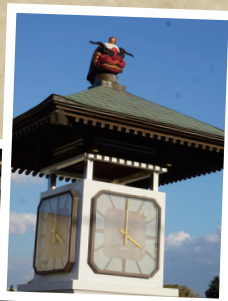
JR 石岡駅下の観光協会前には「石岡のおまつり」が常時展示されており、いつでもその風情が楽しめる。写真の山車、幌獅子は泉町のも。人形は鐘馭（しょうぎ）。

“獅子”がいっぱい

石岡市内を歩くと、あちらこちらで“獅子”に出会えます。



JR 石岡駅のからくり時計。毎時0分に、おかめ・ひょっとこ・きつねが登場し踊る。



足下にも“獅子”。獅子頭がデザインされた下水道のマンホール。色鮮やかに彩色されたものも登場。市内観光スポット、まち蔵「藍」でマンホールカードが入手できる（無料）。



甘い脂身が絶品の“しし鍋”。確実に食するには、予約がおすすめ。



原付のナンバーにも“獅子”。希望者に交付される。

石岡めぐり

▶ **BRT** (Bus Rapid Transit)
バス高速輸送システム。平成18年3月に廃線となった鹿島鉄道の廃線敷地をバス専用道に再整備した。平成22年8月から運行中。新しい公共交通の形を体験してみよう。

(写真提供：石岡市)



まだまだ魅力がいっぱい

石岡市は“獅子” だけではなく。
他にも見どころ、食べどころがたくさんあります。

▲茨城県フラワーパーク

約30haの広大な敷地に、四季折々の花が咲き誇る。冬期には、約50万球のLEDが魅惑の空間を演出する。

(写真提供：石岡市)



▲看板建築

旧石岡市街に多数点在する。昭和4年の石岡の大火後に造られた。洋風な外観のレトロ感が時間を超える。



▲石岡の地酒

石岡市には4つの酒蔵があり、一般公開しているところもある（要予約）。

(写真提供：石岡市)



▲常陸風土記の丘

桜の名所としても知られる。園内には、竪穴式住居や茅葺き住居も復元されている。

(写真提供：石岡市)

◀パラグライダー

筑波山山麓の八郷地区は、日本有数のフライトエリアとして有名。未経験者も体験可能（要予約）。

(写真提供：石岡市)



石岡市公式ホームページ
<https://www.city.ishioka.lg.jp/>